

2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方

■ 琵琶湖をどう考えるのか

壊滅的な渇水対応を計画するに際して

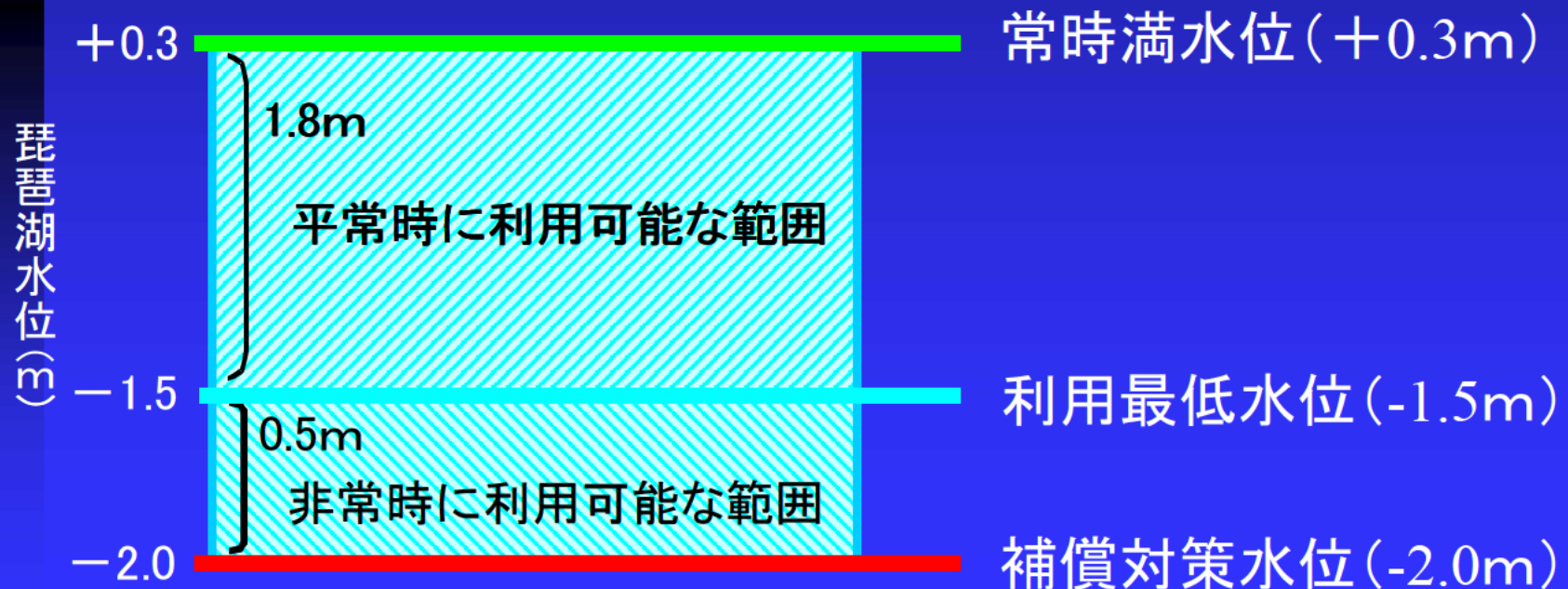
- 案1) 琵琶湖の水位は、 -1.5m 以下にならないようにする
- 案2) 琵琶湖の水位は、 -2.0m 以下にならないようにする

2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方

■ 琵琶湖の水位の考え方

常時満水位は、

- ・ 治水上の無害水位相当
- ・ 利水上、渇水時に利用最低水位を下回らない水位の2点から、0.3mと定められています。



2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方

■ 琵琶湖の水位の考え方

■ -1.5mとは...

非常時を除いて、琵琶湖から下流への必要な水量(40m³/s)を確保するための放流操作を行う場合、通常この範囲に収まると判断される低水位です。

■ 利用低水位-1.5mと 補償対策水位-2.0m の関係

滋賀県と調整の結果、-1.5mを利用低水位と位置付け、-1.5mを下回る非常渇水時においても、琵琶湖周辺およびその周辺地域の水道の取水・舟運などに被害が生じないようにするために、補償対策水位-2.0mを設定しました。

2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方

■ -1.23mの状況



延勝寺(H6.8.30 -1.03m)



太閤井跡(H6.9.15)

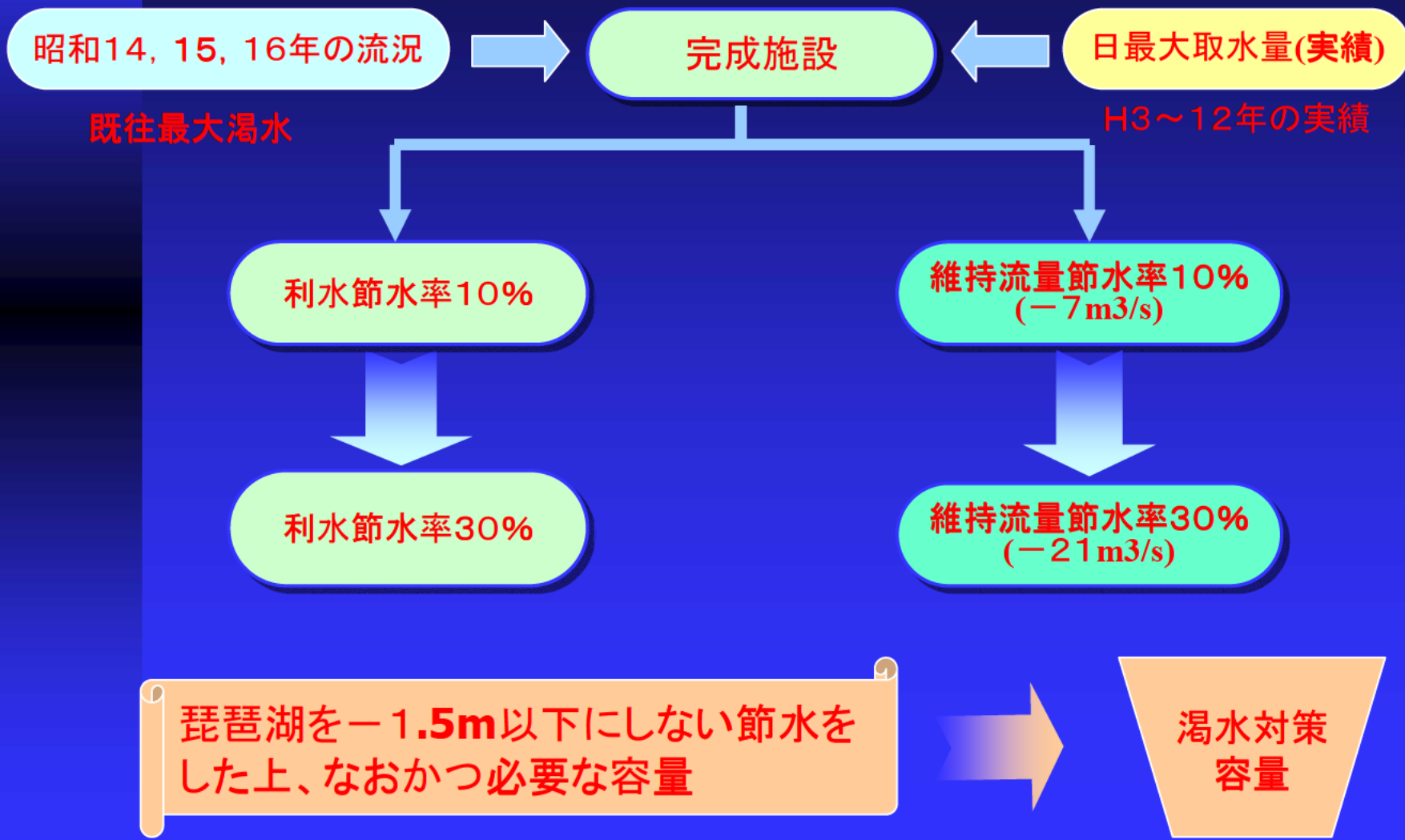


浮御堂(H6.9.15)

2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方



2. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備の考え方



3. 壊滅的な渇水被害対応の施設整備(貯水容量の確保)

現時点の水利用で、水利用の調整を行った場合の琵琶湖の状況

